

A photograph of a herd of black and white cows in a green field. The cows are standing and grazing. The background shows trees and a clear sky.

豪州の酪農乳業事情

平成29年4月27日

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 国際調査グループ
大塚 健太郎

本日の内容

1. 生乳生産と生産者乳価の動向
2. 牛乳・乳製品の生産と輸出の動向
3. 牛乳・乳製品の国内消費
4. 乳業メーカーと生産者団体
5. 今後の見通し
6. まとめ

1. 生乳生産と生産者乳価の動向

基本的数値の比較（日本、豪州）

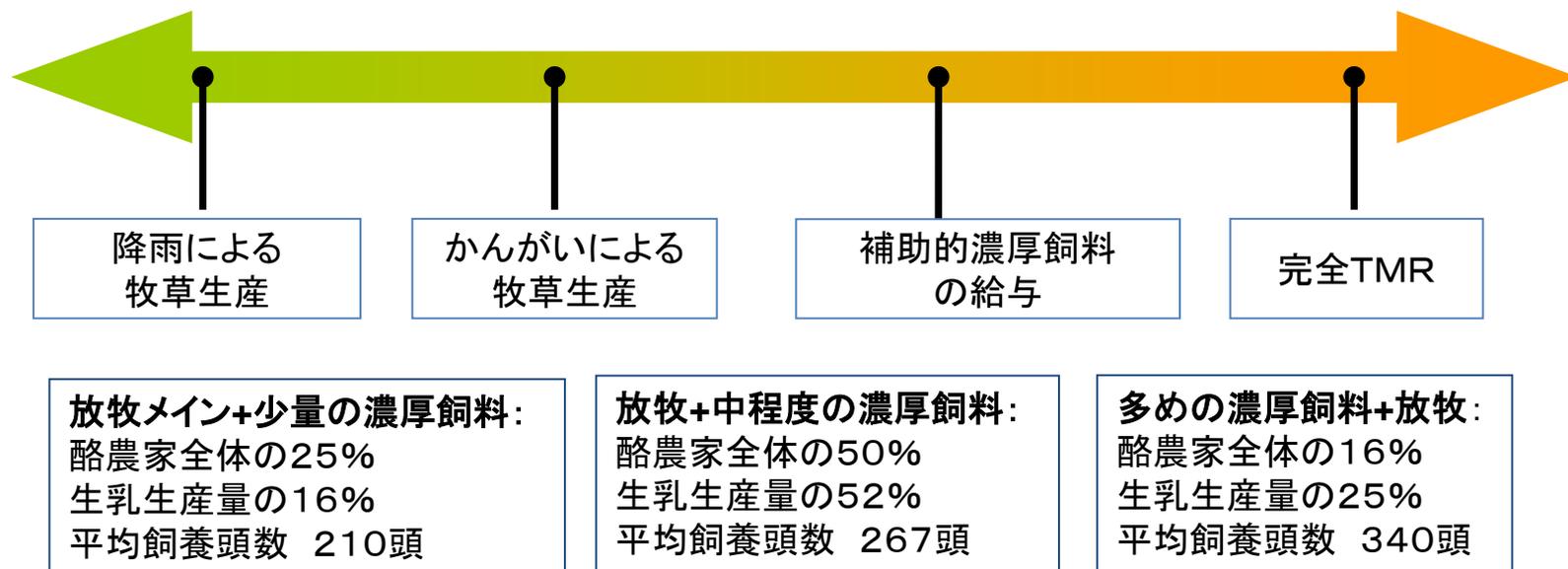
	日本（2016年）	豪州（2015/16年度）
人口	1億2700万人	2410万人（日本の5分の1）
国土面積	38万km ²	769万km ² （同20倍）
農用地面積	4万km ²	384万km ² （同96倍）
酪農家戸数	1万7000戸	6102戸（同3分の1）
乳用経産牛飼養頭数	87万頭	166万頭（同2倍）
生乳生産量	738万トン	982万トン（同1.3倍）
1戸当たり経産牛飼養頭数	51.2頭	272頭（同5倍）
1頭当たり乳量	8,511kg	5,839kg（同3分の2）
1人当たり年間消費量	牛乳 23.7ℓ チーズ 2.4kg バター 0.6kg	牛乳 105.0ℓ（同4倍） チーズ 13.9kg（同6倍） バター 3.9kg（同6.5倍）

資料：総務省、国土交通省、内閣府、農林水産省、豪州統計局（ABS）、豪州資源農業経済科学局（ABARES）、デーリーオーストラリア（DA）
注：豪州の生乳生産量は、1キロリットル=1.03トンとして計算した。

豪州の酪農経営

完全放牧:
酪農家全体の5%
生乳生産量の2%
平均飼養頭数 186頭

完全TMR:
酪農家全体の2%
生乳生産量の4%
平均飼養頭数 404頭

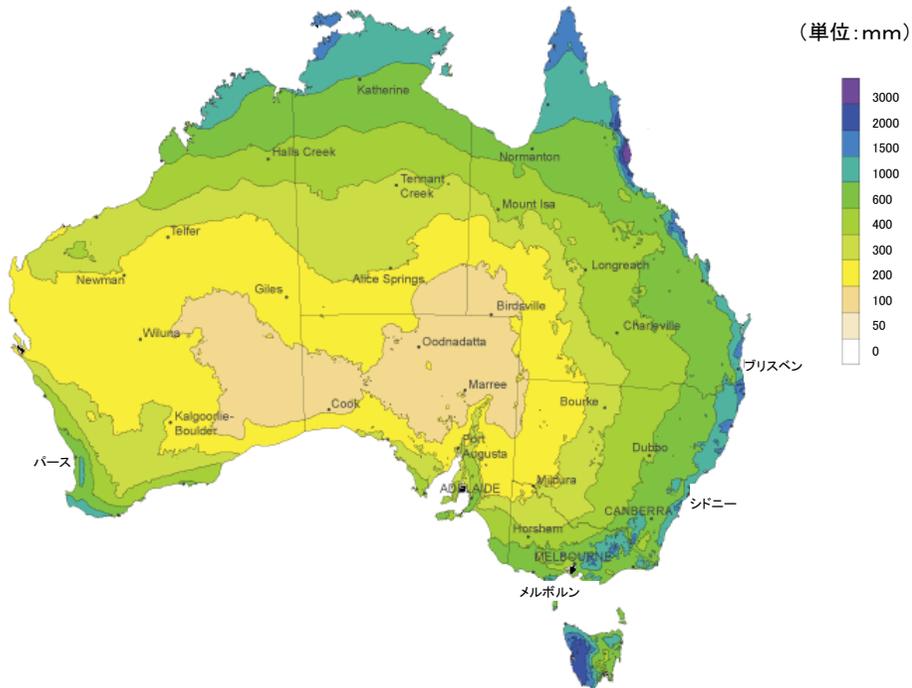


資料:ホルスタイン・オーストラリア

酪農地域（1）

降雨量が多い地域と河川の周辺に酪農経営が集中

年間平均降雨量



資料: 豪州気象局

豪州の酪農地域



色つき: 主な酪農地域

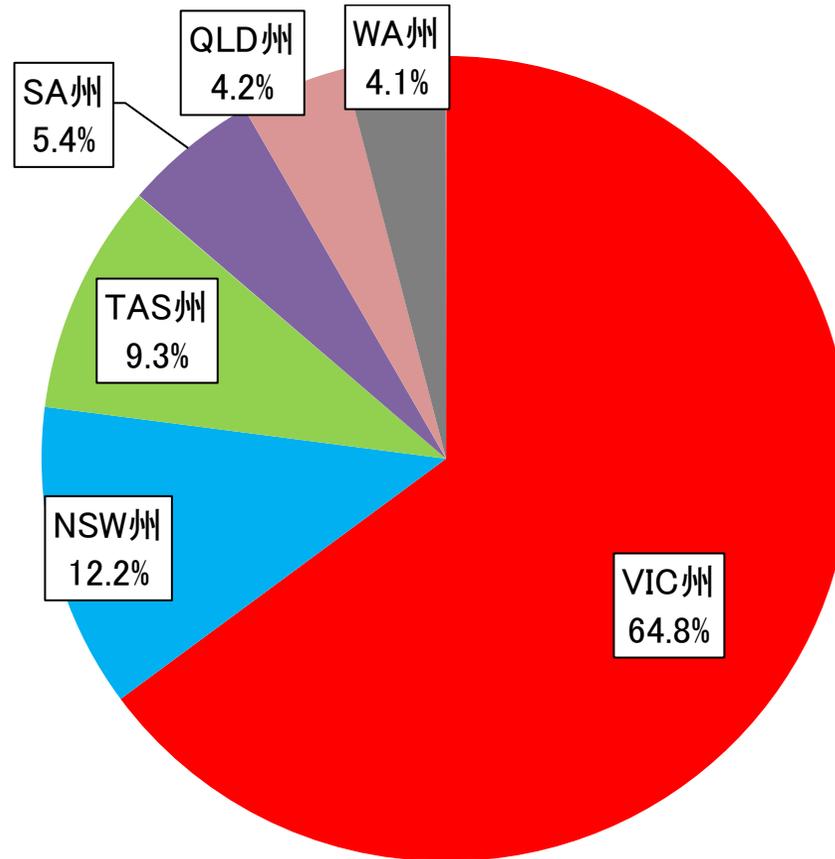
資料: DA

タスマニア州

酪農地域（2）

ビクトリア州が生乳生産量の6割程度を占める。

州別の生乳生産割合（2015／16年度）

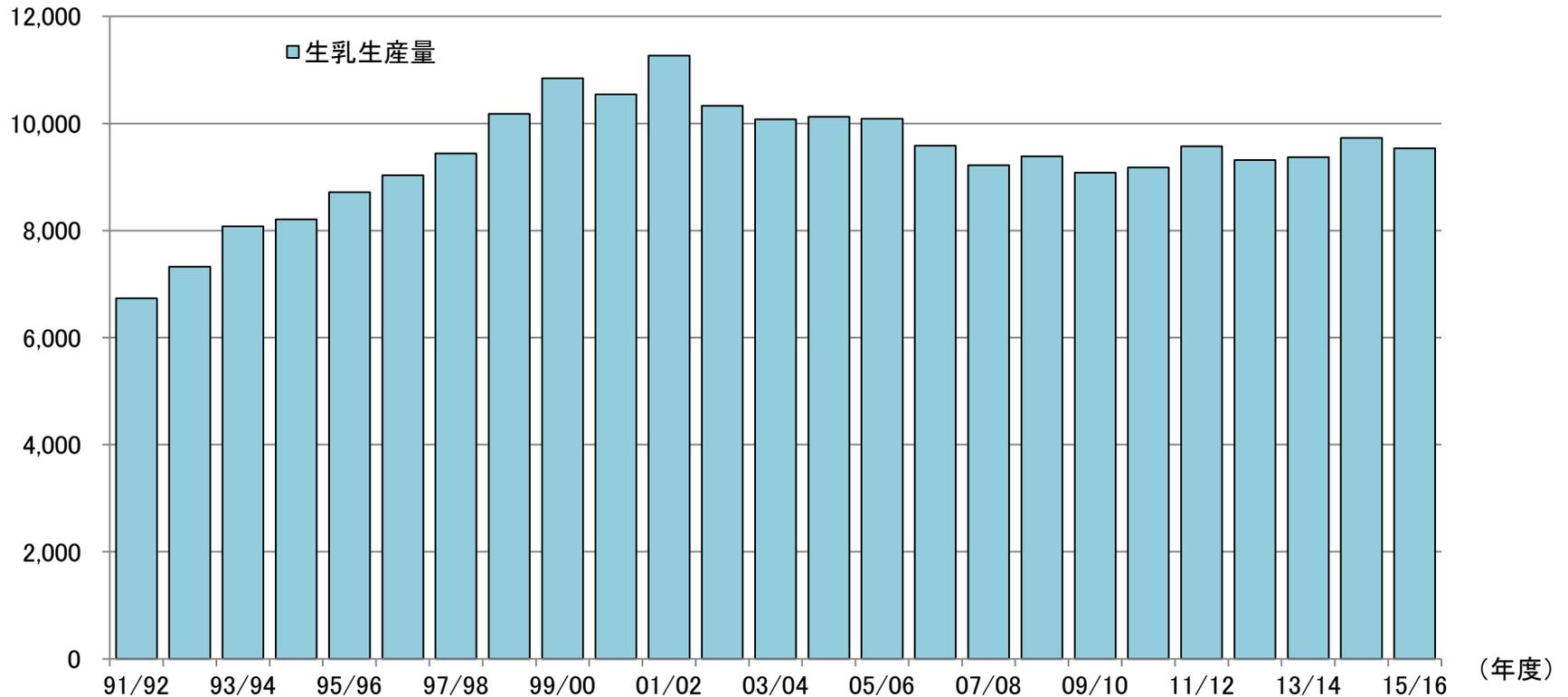


資料:DA （年度は7月～翌6月）

生乳生産量の長期的推移

2001/02年度をピークに減少

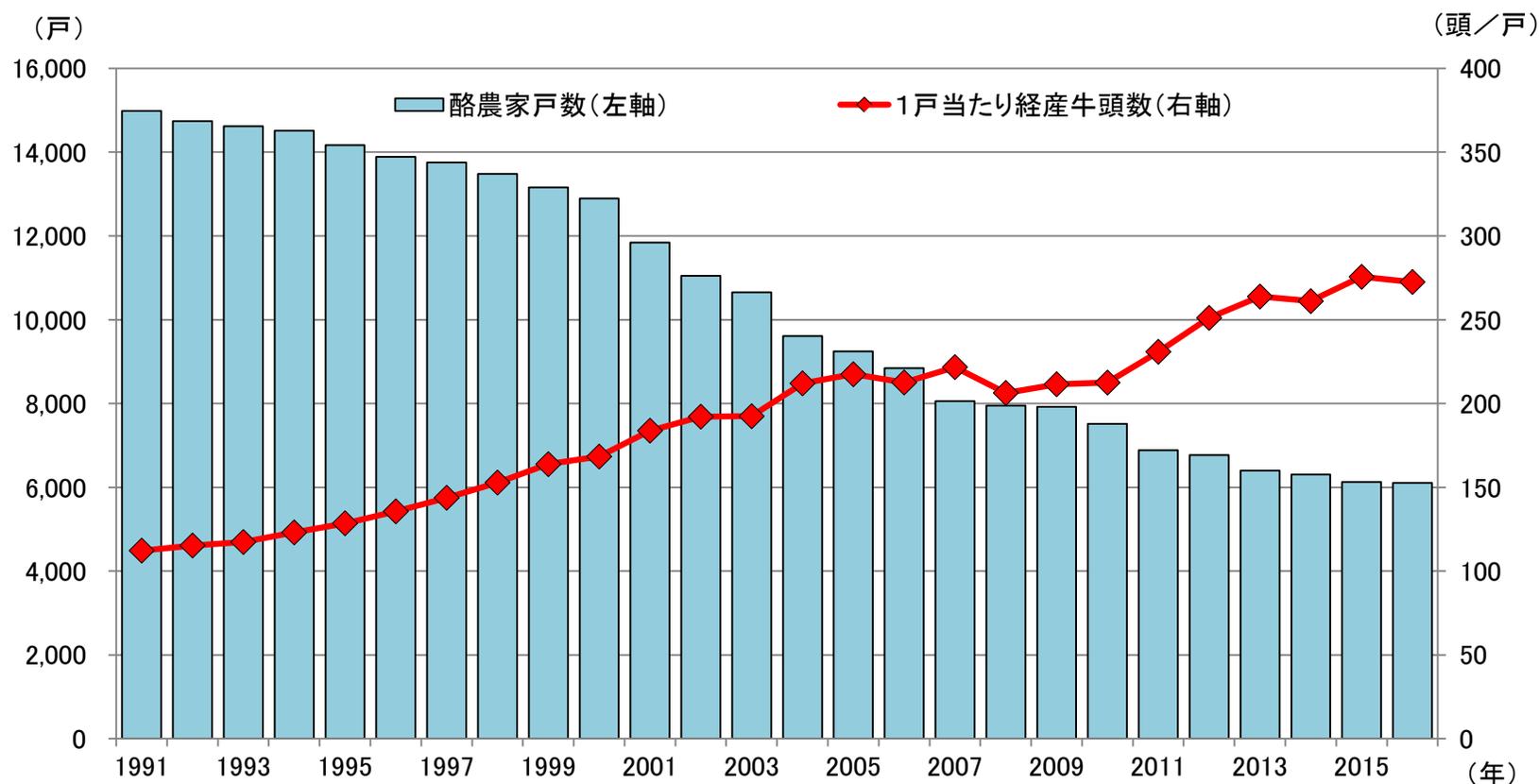
(千キロリットル)



資料: ABARES (年度は7月～翌6月)

酪農家戸数および1戸当たり 飼養頭数の推移

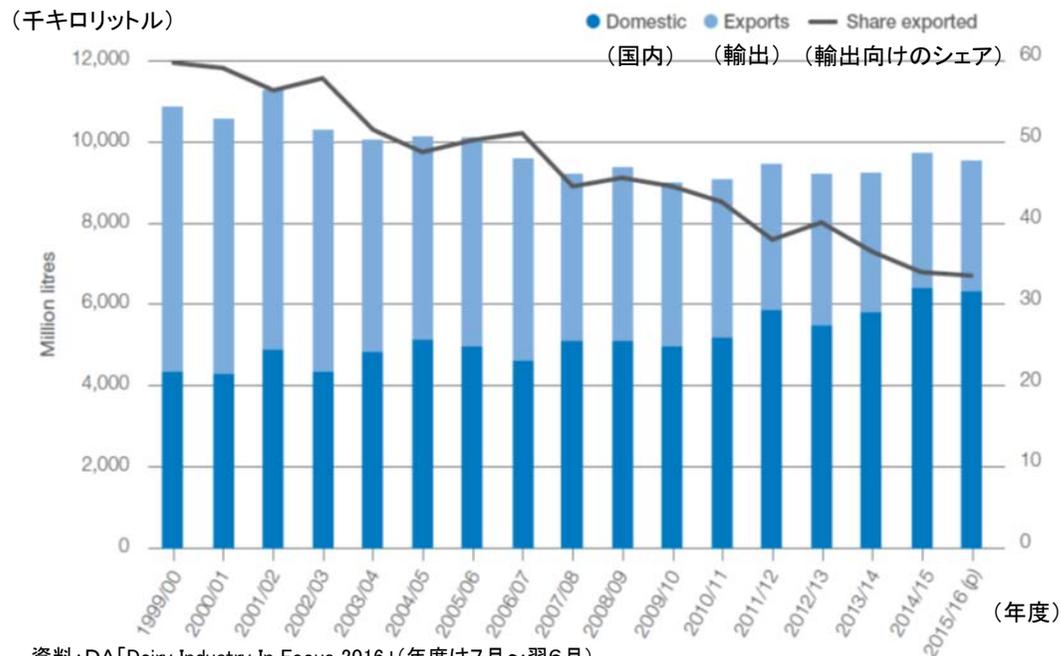
大規模化、集約化により1戸当たり経産牛飼養頭数は増加



生乳の仕向先

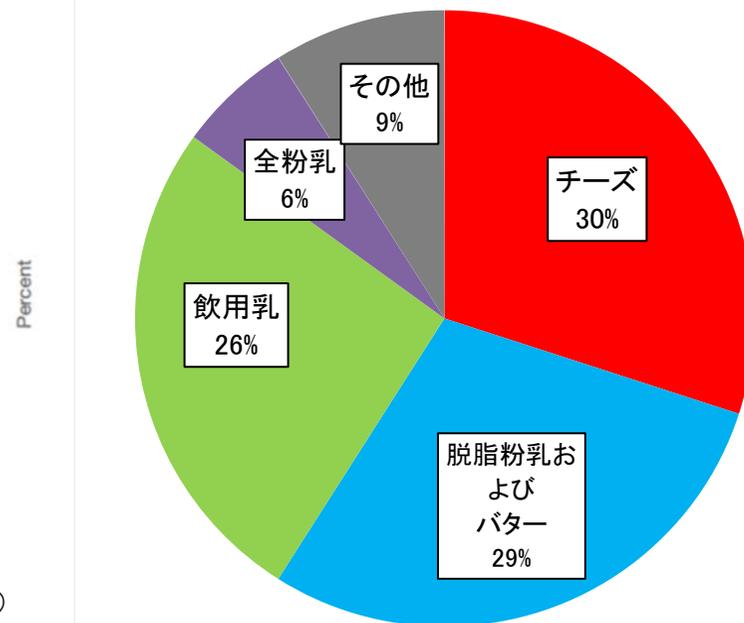
- 生乳の仕向先は、国内向けが増加傾向。輸出向けは4割以下まで低下。
- 生乳の品目別仕向割合は、チーズ、脱脂粉乳およびバター、飲用乳がそれぞれ3割程度。

生乳の仕向先（国内向け、輸出向け）の推移



資料: DA「Dairy Industry In Focus 2016」(年度は7月～翌6月)
Source: Dairy manufacturers and ABS

生乳の品目別仕向割合（2015/16年度）

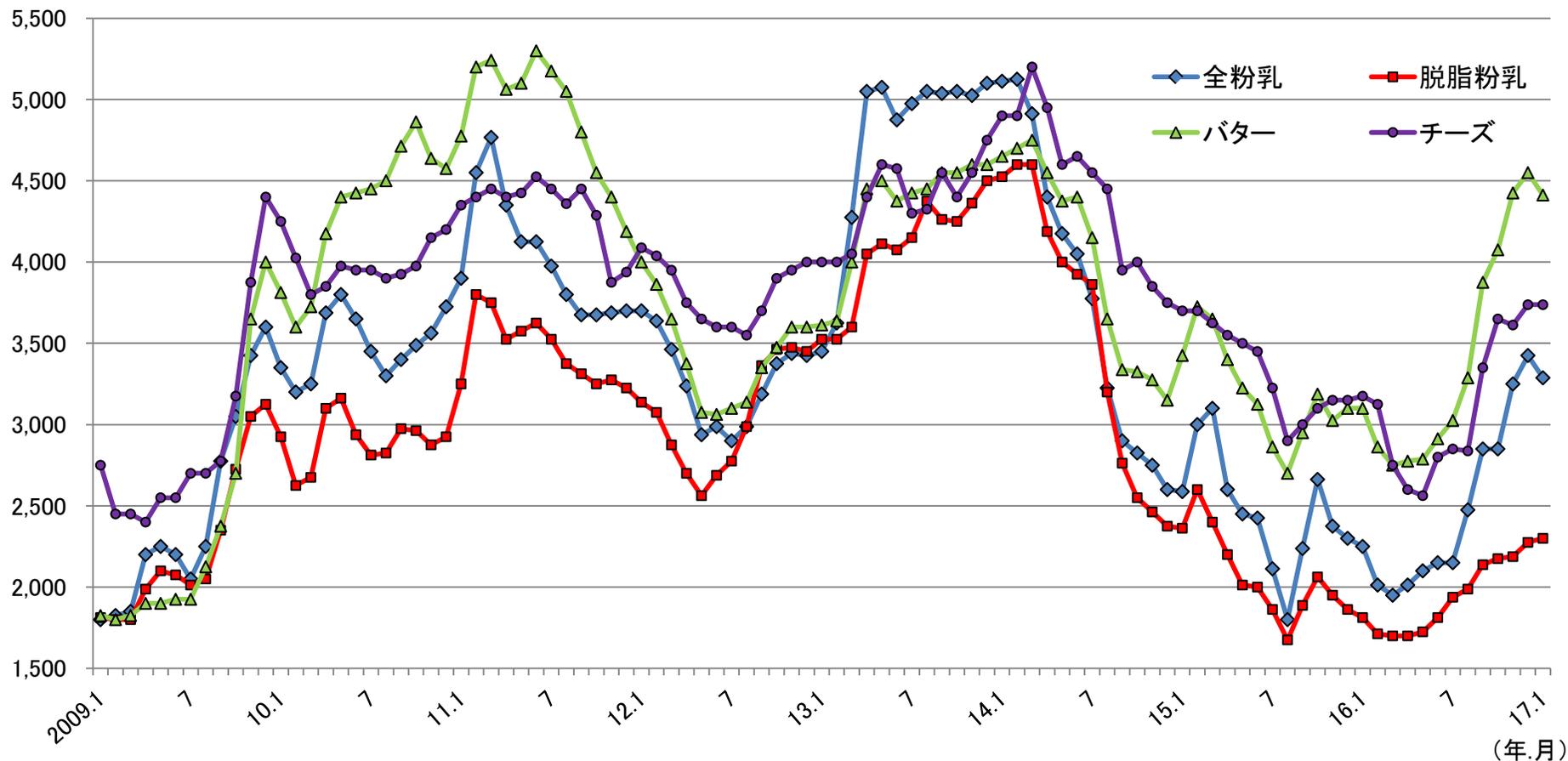


資料: DA (年度は7月～翌6月)

乳製品の国際取引価格

2014年4、5月頃から急落、最近は上昇傾向

(米ドル/トン)



資料：USDA、ZMB

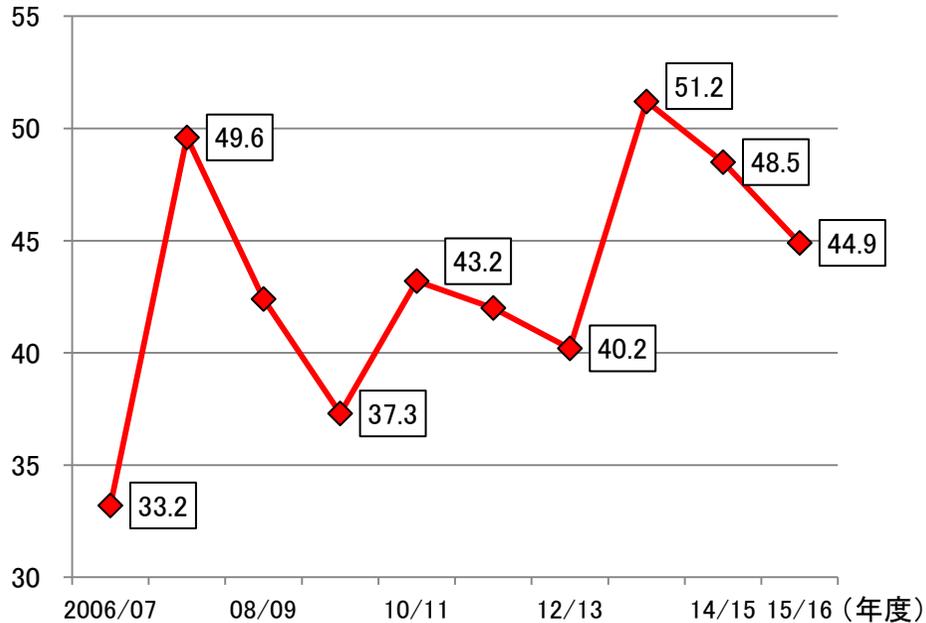
注：チーズはオセアニアのFOB価格、その他はEUの積出港FOB価格。

生産者乳価

- 15/16年度は、乳製品国際取引価格の低迷に伴い下落
- 16/17年度は、乳製品国際取引価格の回復に伴い、乳価引き上げの動き

生産者乳価の推移

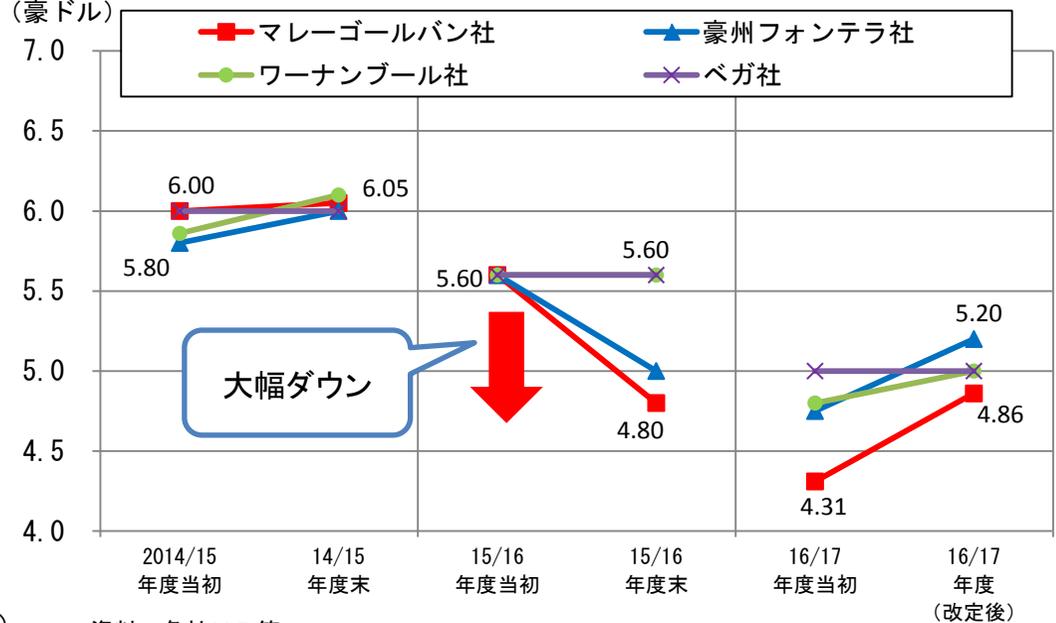
(豪セント/生乳1リットル)



資料: DA (年度は7月~翌6月)

主要乳業メーカーの生産者乳価の推移

(豪ドル)



資料: 各社HP等

注1: 価格は乳固形分1キログラム当たり。

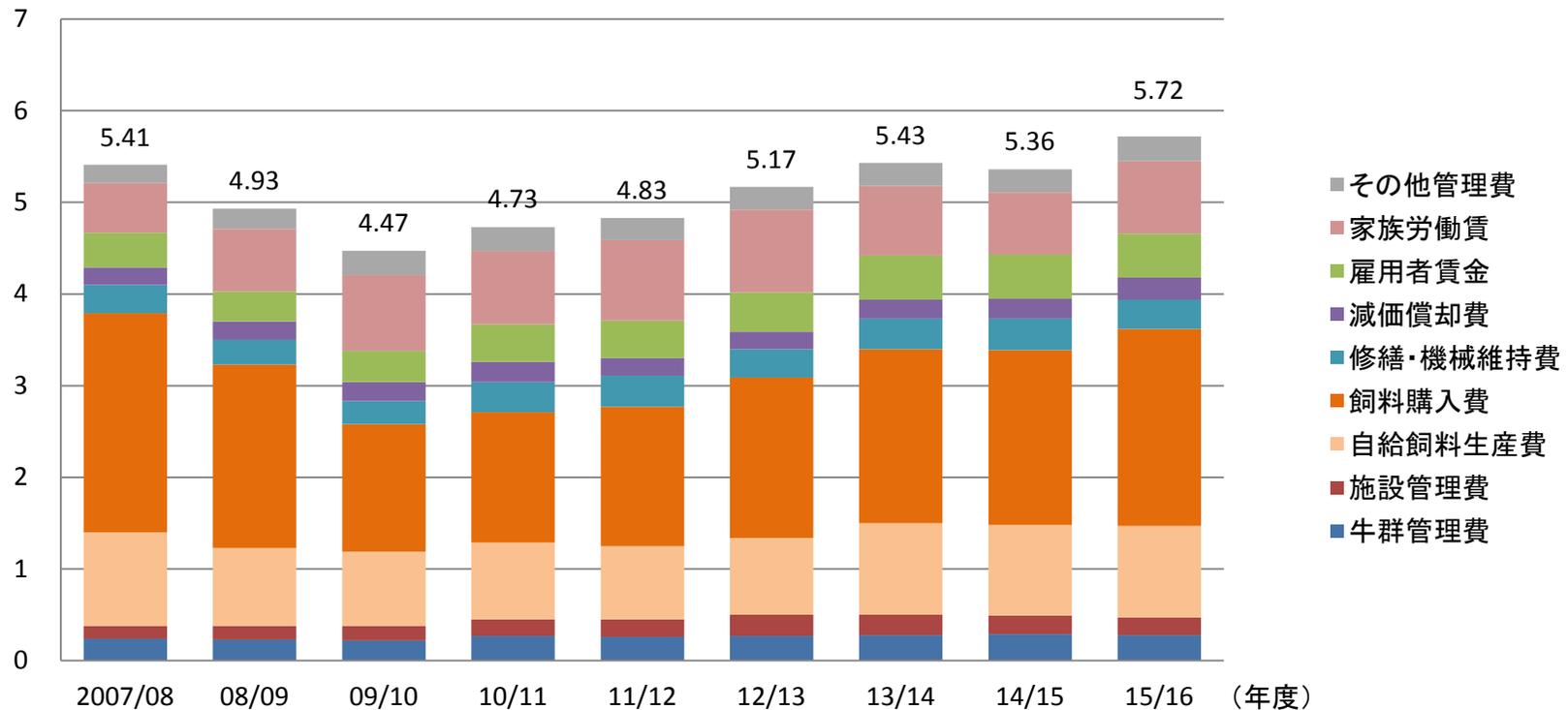
注2: 2016/17年度改定後の数値は、3月末時点。

酪農家の生産コスト

15/16年度は生産者乳価を上回る水準

ビクトリア州における酪農家の生産コストの推移

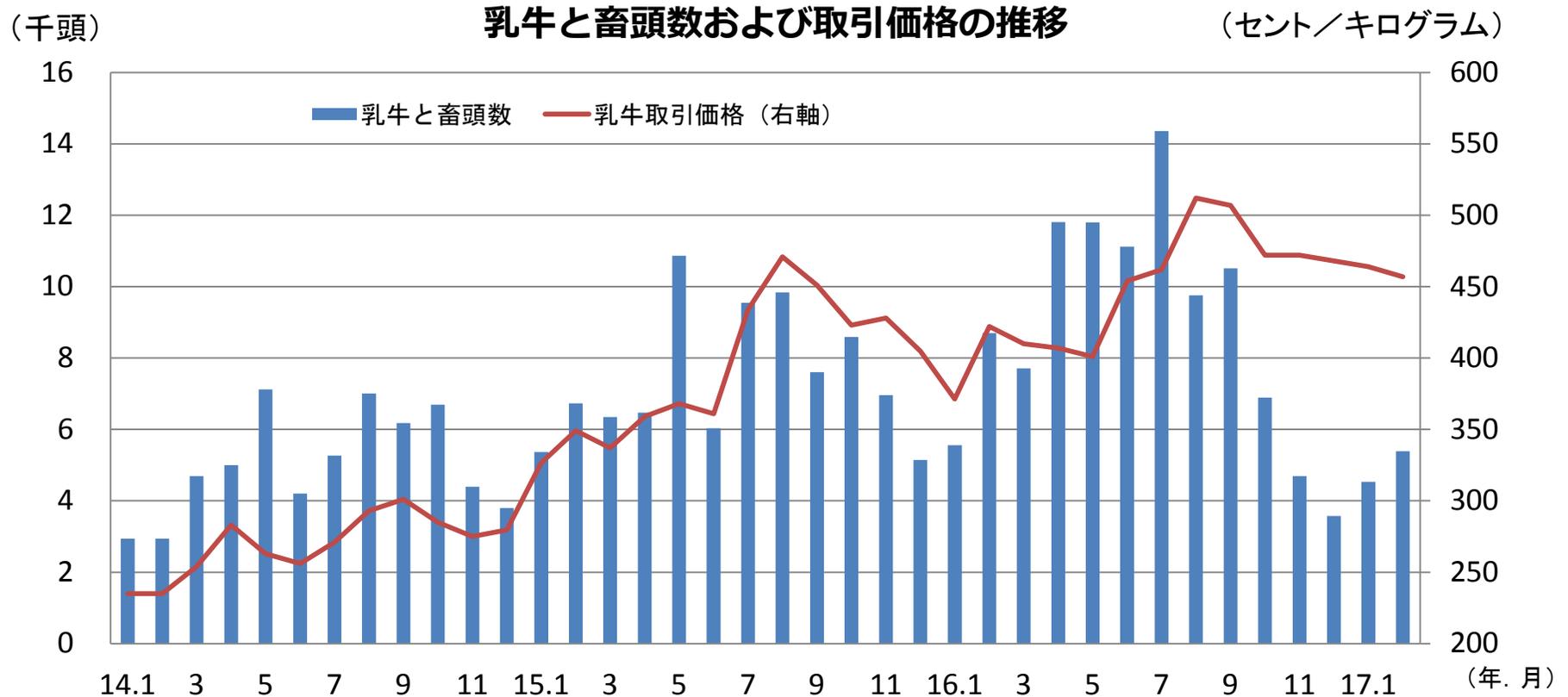
(豪ドル／乳固形分1キログラム)



資料: DA

生産者乳価低迷の影響（１）

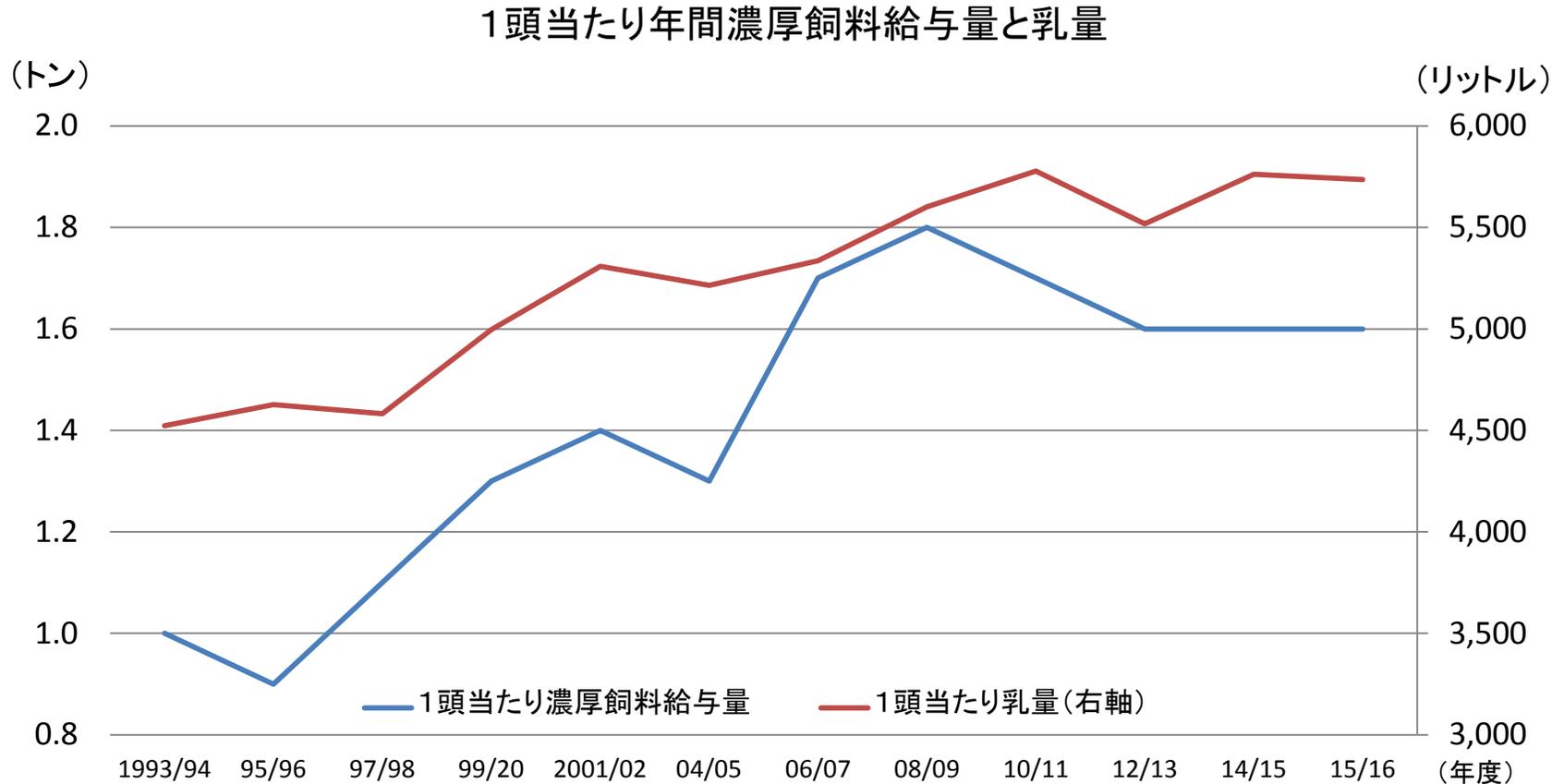
廃用牛価格の上昇もあり、2016年に乳牛の淘汰が増加



資料: DA

生産者乳価低迷の影響（2）

コスト削減のために濃厚飼料削減の動きも。



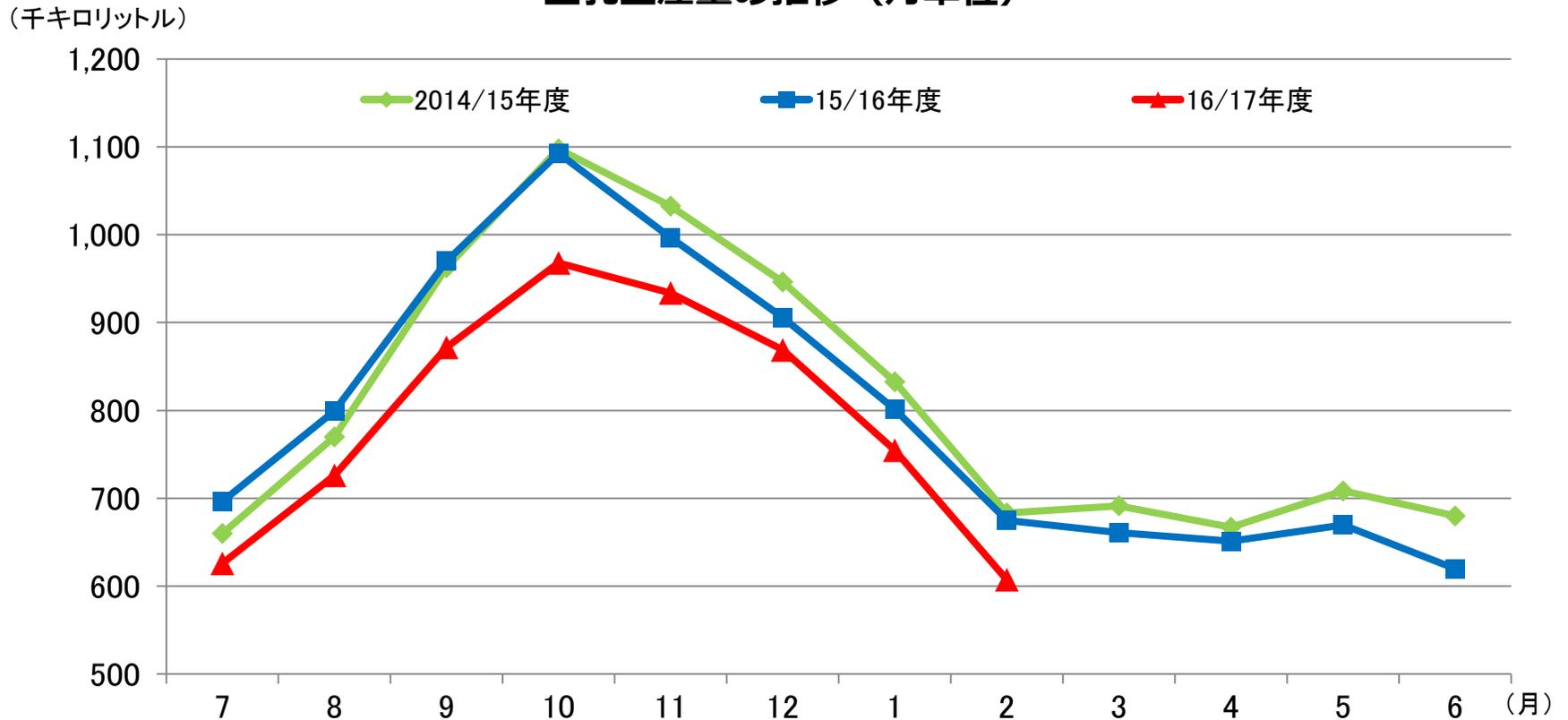
資料: ABARES、DA

注: 濃厚飼料給与量は、2011/12年度まではABARES、2011/12年度以降はDAの数値。

生産者乳価低迷の影響（3）

乳牛飼養頭数の減少や濃厚飼料削減などにより生乳生産量が減少

生乳生産量の推移（月単位）



資料：DA

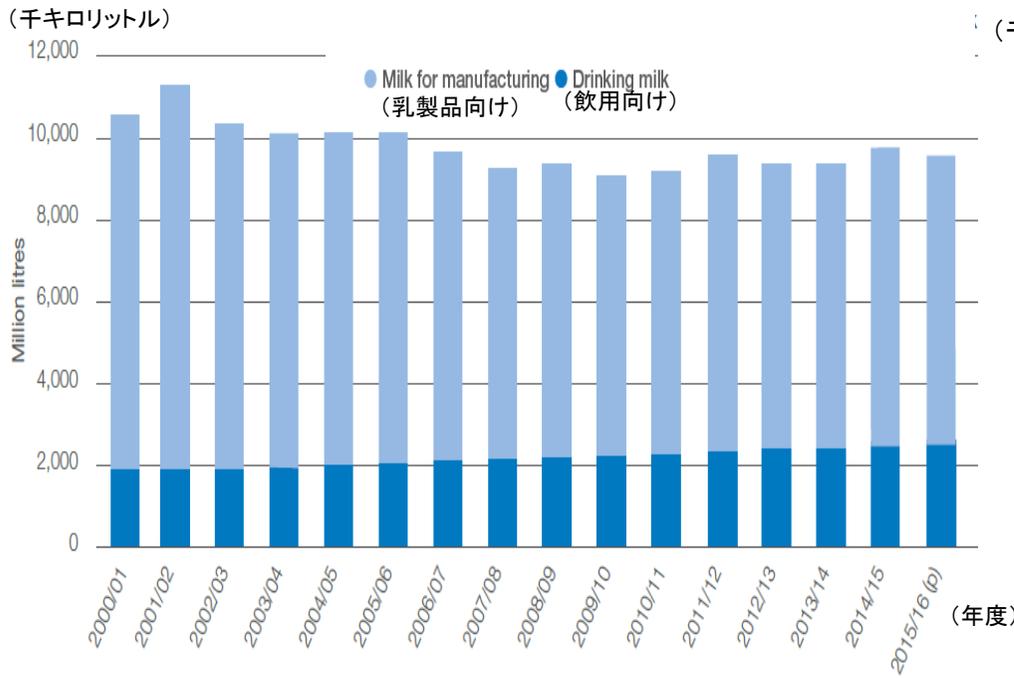
注：年度は7月～翌6月。

2. 牛乳・乳製品の生産 と輸出の動向

飲用乳の生産動向

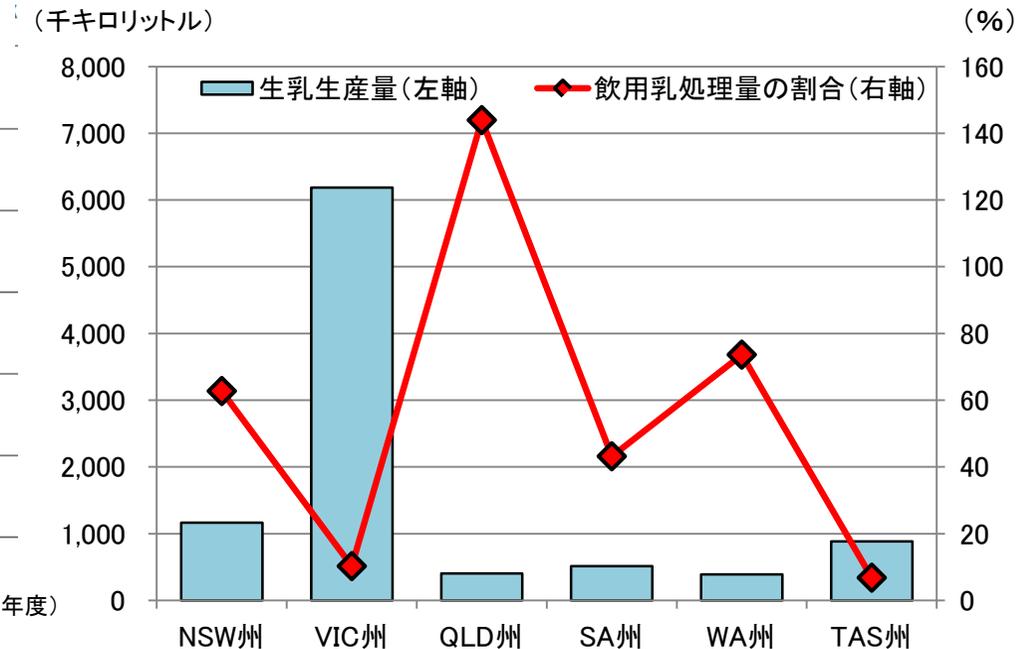
- 飲用乳への仕向量は、人口の増加に伴い増加傾向。
- 飲用乳への仕向割合は、QLD州、WA州、NSW州で高い。

生乳仕向先（飲用・乳製品）の推移



資料: DA「Dairy Industry In Focus 2016」(年度は7月～翌6月)

州別生乳生産量と飲用乳処理割合（2015/16年度）



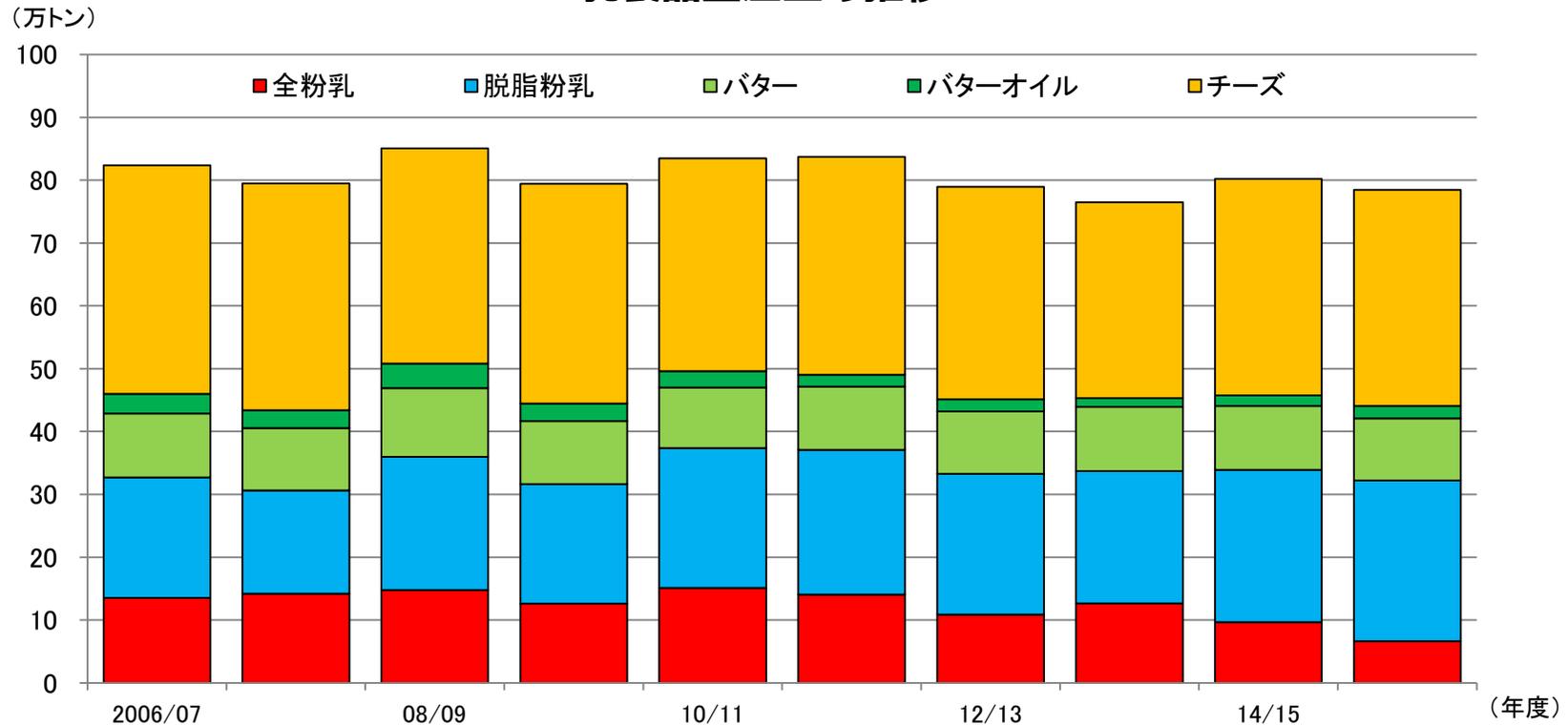
資料: DA (年度は7月～翌6月)

注: 生乳生産量は農場の所在地で集計。飲用乳処理量は州間移動を含む。

乳製品の生産動向

- 生乳生産量の減少に伴い減少。
- 品目別では、収益性が低下している全粉乳の生産量が減少。

乳製品生産量の推移

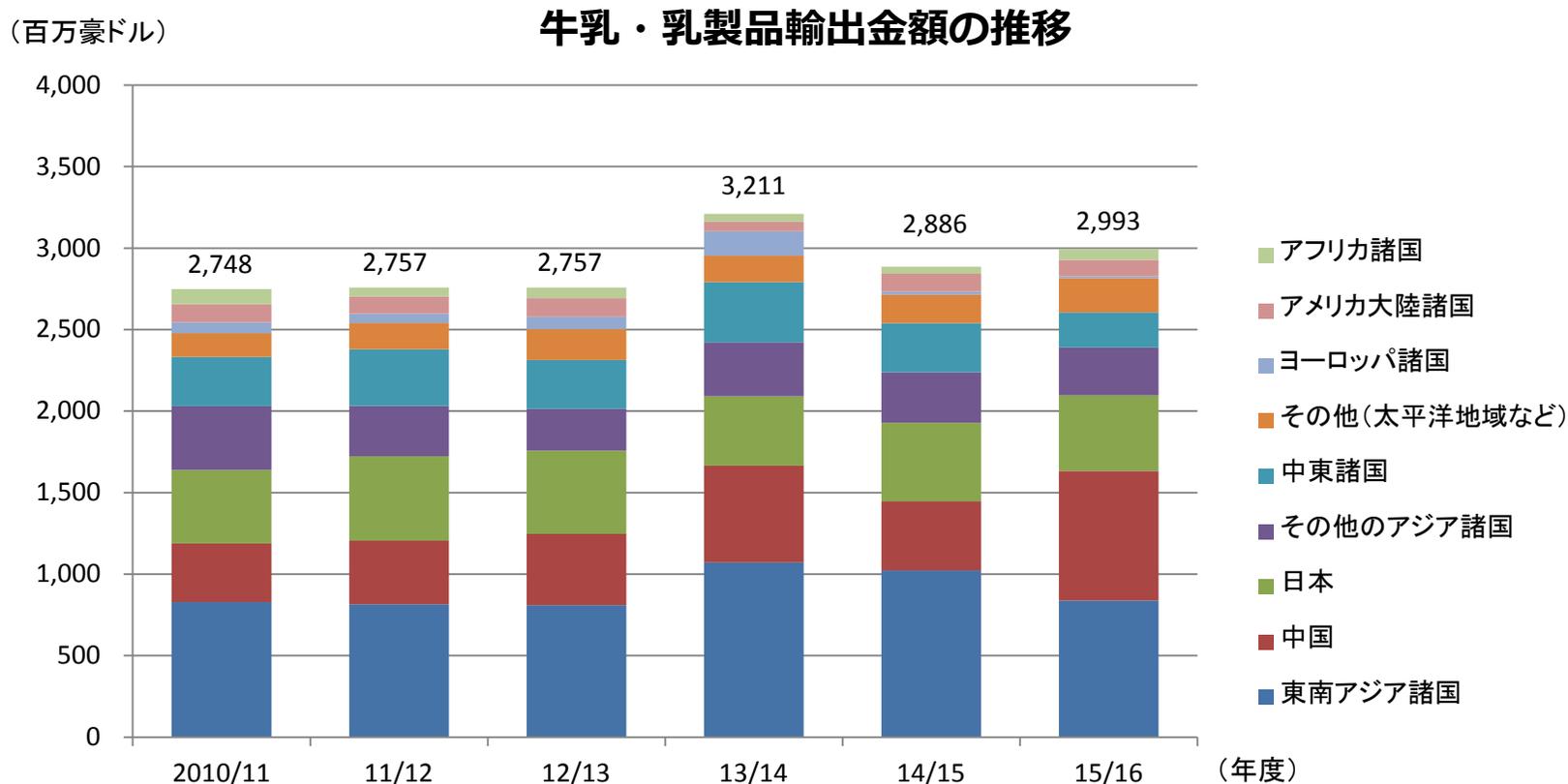


資料: DA (年度は7月～翌6月)

注: 製品重量ベース。

乳製品の輸出動向

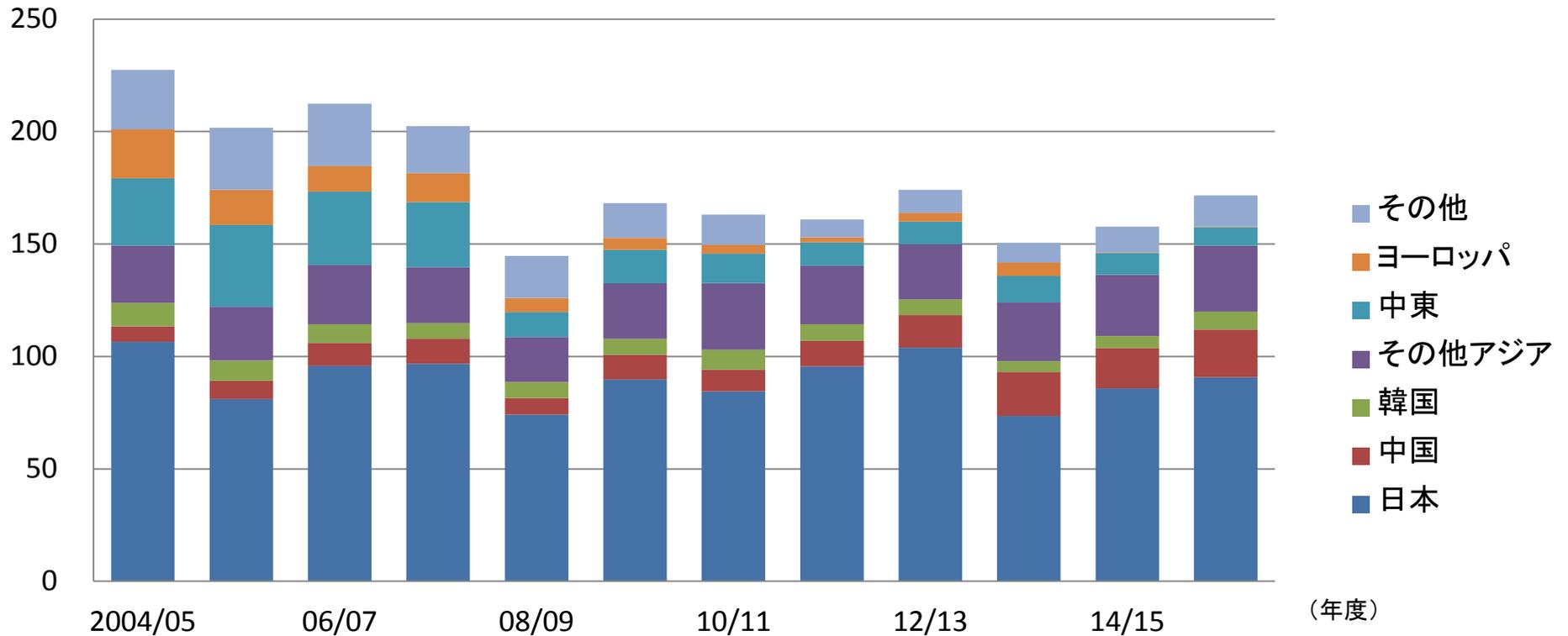
- 輸出金額、中国向けを中心に増加。
- 主な輸出先は、中国、日本や東南アジア向けで、約7割を占める。



チーズの輸出動向

- 日本向けの増加により増加。
- 日本が長年にわたり最大の輸出先。

(千トン)

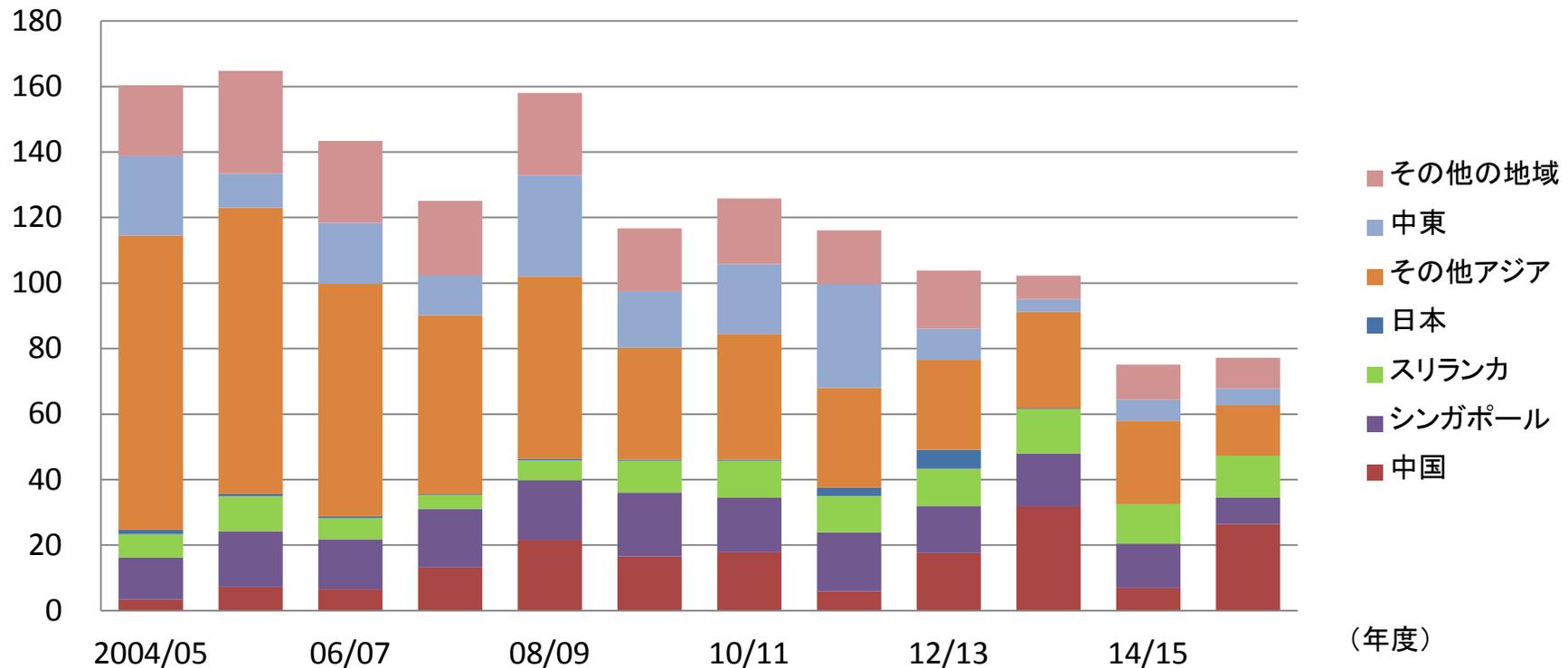


資料: DA

全粉乳の輸出動向

- 収益性が低下していることから減少傾向。
- 中国が最大の輸出先。アジア向けが8割を占める。

(千トン)

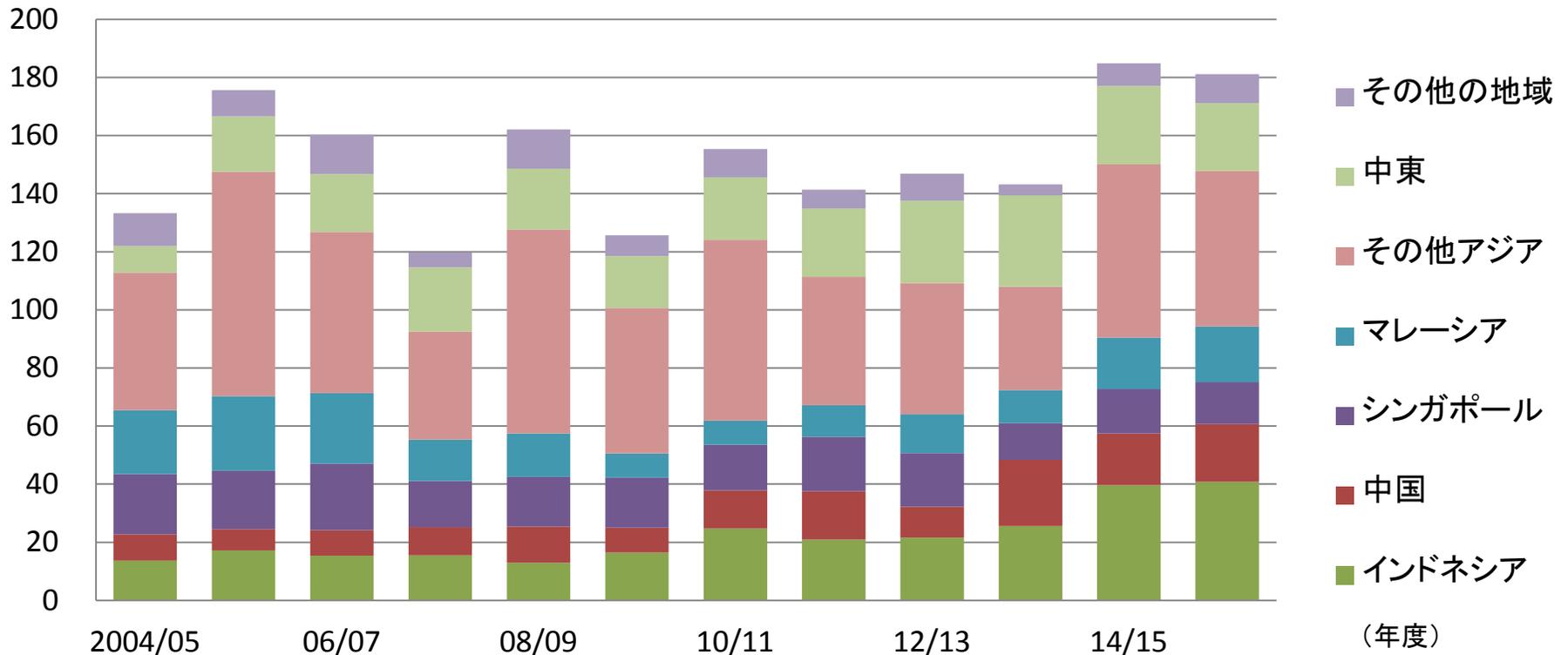


資料:DA

脱脂粉乳の輸出動向

- アジア向けを中心に増加傾向。
- インドネシアが最大の輸出先。

(千トン)

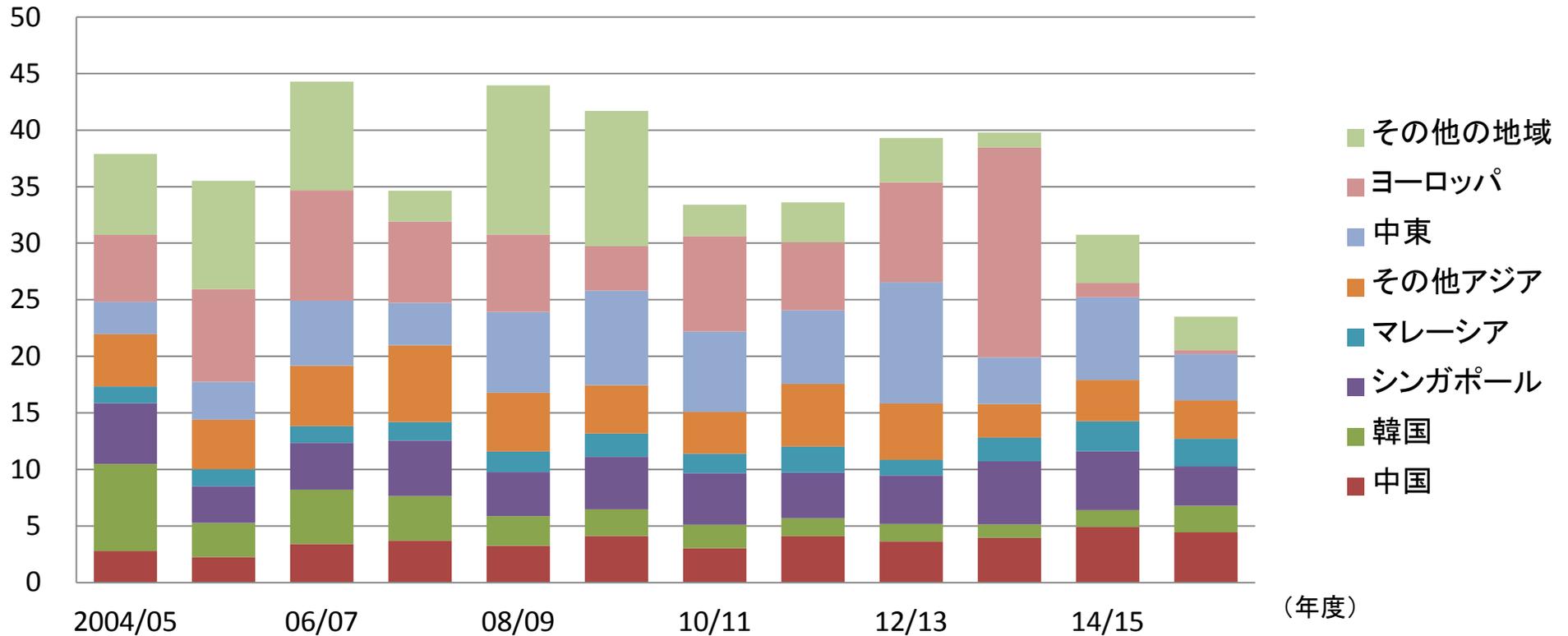


資料:DA

バターの輸出動向

- ロシアの禁輸措置により減少。
- 大部分がアジア向け。

(千トン)

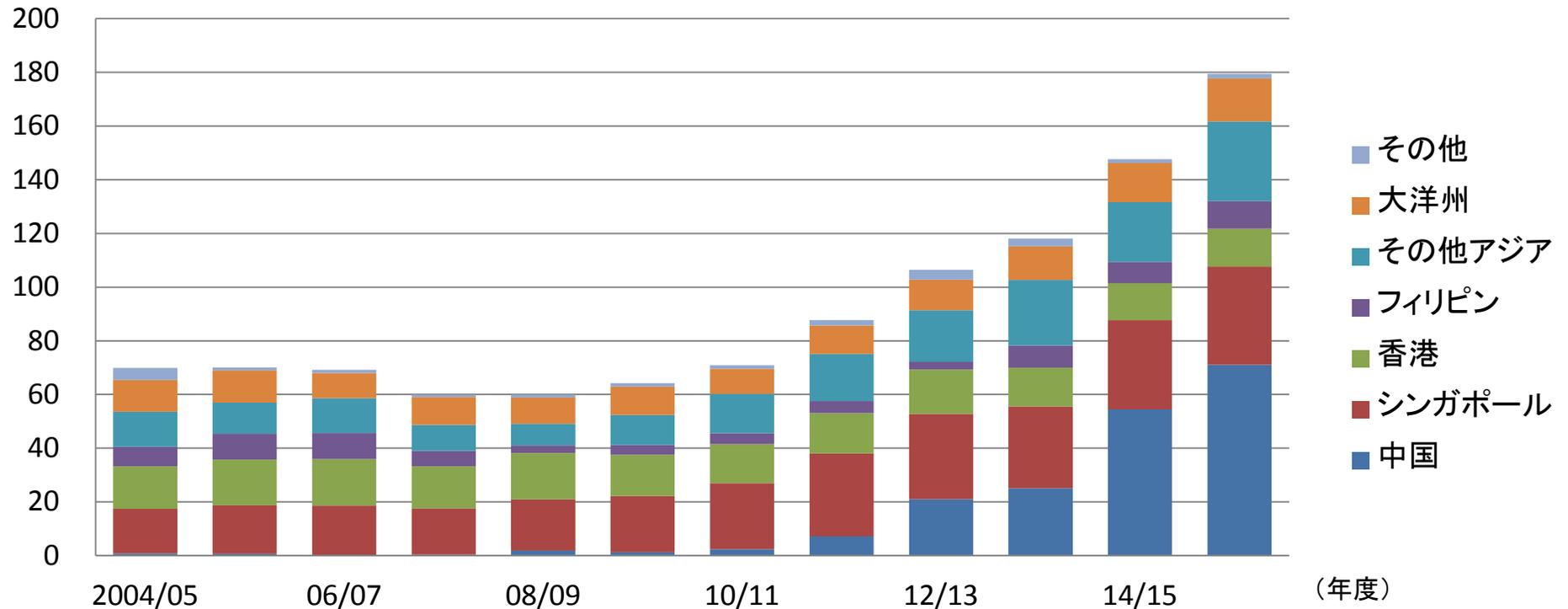


資料:DA

液状乳の輸出動向

- ・ 中国向けを中心に右肩上がり増加。
- ・ 大部分が常温・長期保存可能なUHT牛乳（ロングライフ牛乳）

(千キロリットル)



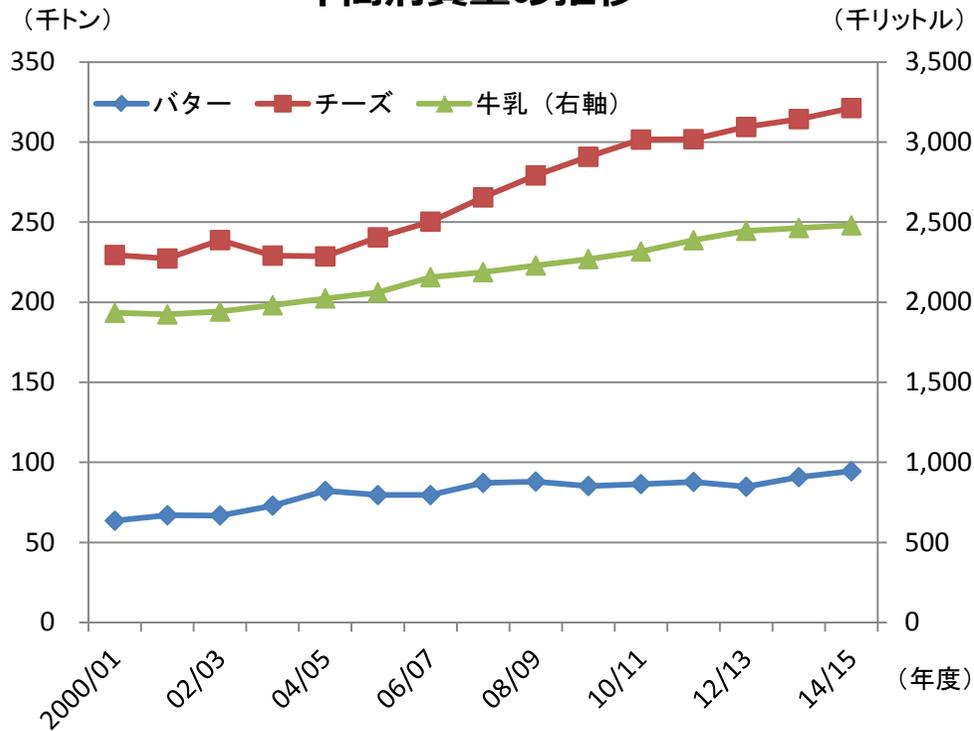
資料:DA

3. 牛乳・乳製品の国内消費

国内消費（１）

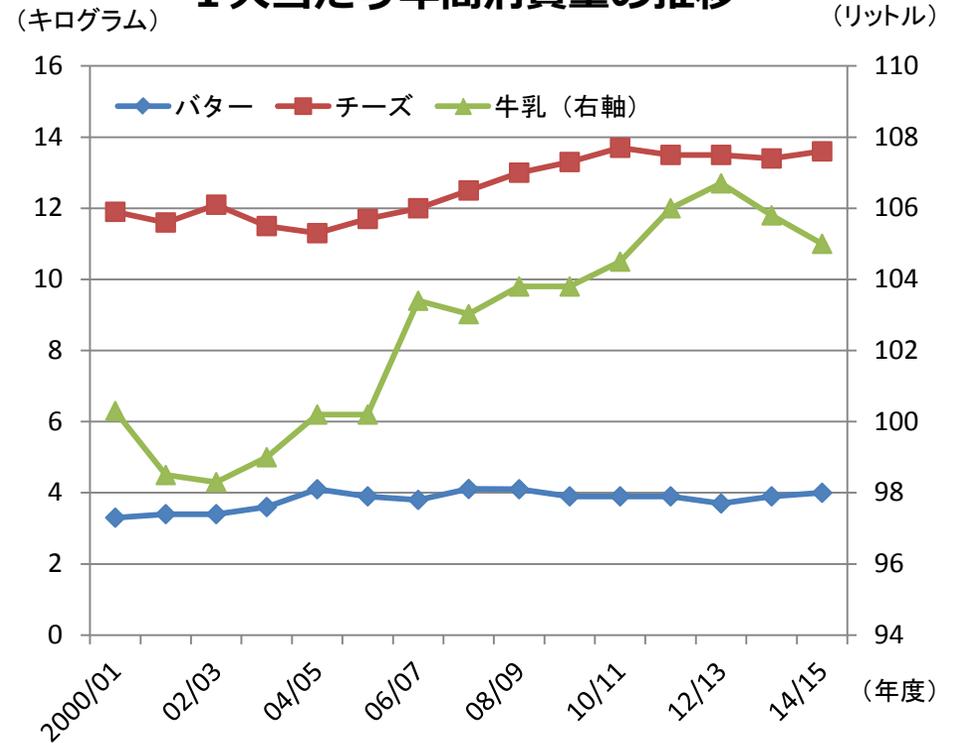
- 人口の増加に伴い増加
- 1人当たり消費量も増加傾向

年間消費量の推移



資料: ABARES

1人当たり年間消費量の推移



資料: ABARES

国内消費（2）

- 1人当たり飲用乳消費量は、日本の約4倍と非常に多い。
- カフェで「フラットホワイト」などの「牛乳入りのコーヒー」による消費が多い。

カフェで提供されているフラットホワイト



小売大手で販売されている牛乳

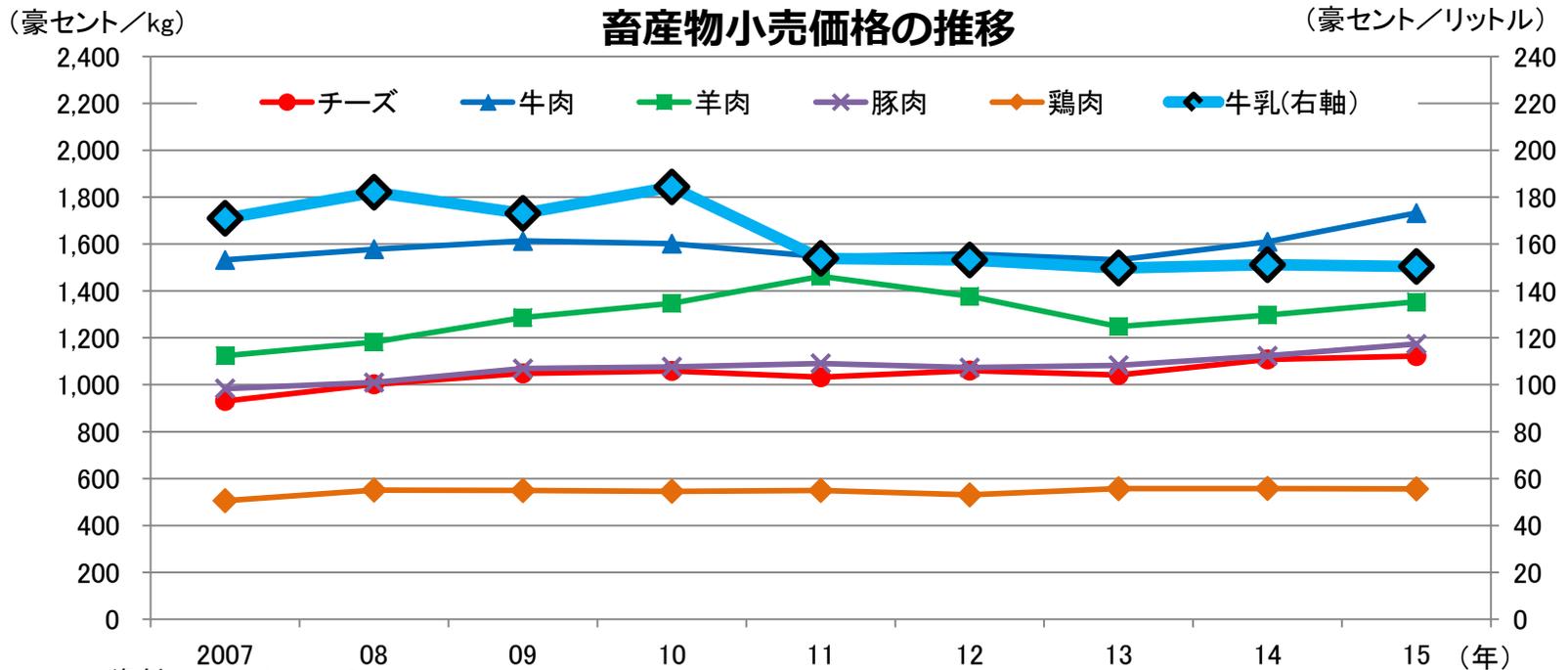


ホテルや機内で利用
されているUHTの
ポーション



国内消費（3）

- 2011年以降、小売大手のコールズ社とウールワース社が（2社で業界7割のシェア）1ℓ1豪ドルのPB牛乳を発売。
- 2016年に、生産者乳価の引き下げによる酪農家の苦境を知り、PB以外のメーカーブランドの牛乳を買う動きが広がった。



資料：ABARES

注：牛乳およびチーズの小売価格は、シドニーにおける四半期ごとの価格を平均したもの。

国内消費（４）

① ウールワース社のプライベートブランド牛乳



② コールズ社のプライベートブランド（PB）牛乳



③ マレーゴールバン社ブランドの牛乳



④ 特定の酪農家の生乳を用いた牛乳



⑤ 酪農家支援として新たに立ち上げたPB牛乳



⑥ A2プロテイン牛乳



国内消費（5）

中国人観光客が育児用粉乳を「爆買い」するため、数量制限が行われていることもある。



4. 乳業メーカーと生産者団体

乳業メーカー（１）

- 乳業は大手 6 社が中心、うち 4 社は海外資本。
- 買収や工場投資が活発。

大手乳業メーカーの概要

乳業	企業形態	集乳量	主な販売品目	特徴・近年の動き
		千キロ リットル		
マレーゴールバン (MG)	国内酪農協系	3,600	粉乳、バター、 チーズ	生産者乳価を15/16年度に大幅に 引き下げ
フォンテラ	NZ資本	1,500	粉乳、チーズ、 ヨーグルト	MGに追随して乳価を引き下げ
ライオン	日本資本傘下 (麒麟社)	1,000	牛乳、乳飲料、 チーズ	飲料全般のメーカーであり、国内飲 用乳を中心に乳業部門を展開
ワーナンプール・ チーズ&バター	カナダ資本傘下 (サブート(乳業メーカー))	890	チーズ、粉乳、 ホエイ	2014年、買収競争の結果、カナダ 資本傘下に
パルマラット	フランス資本傘下 (ラクタリス(乳業メーカー))	800	牛乳、乳飲料、 ヨーグルト	2015年12月、フォンテラのヨーグル ト事業などを買収
ベガ	国内資本	656	チーズ、ラクト フェリン	少数株主であったフォンテラが、 2015年10月、株式を売却

資料：DA、各社HP、機構調べ

注：一部推定値などを含む。

乳業メーカー（2）

豪州最大手乳業メーカーは、酪農協系のマレーゴールバン（MG）社。

- 豪州の集乳量の3割以上をカバー、約70万トンの乳製品を輸出。
- 2016年4月、乳製品国際価格の下落、同社の財政問題により、生産者乳価を大幅に引き下げ。
- 投資家から訴訟を提起されるとともに、豪州消費者競争委員会（ACCC）が、MG社と酪農家および流通との契約を調査中。
- 生産者乳価の低迷により、MG社から他社へ移る酪農家も。



生産者団体（1）

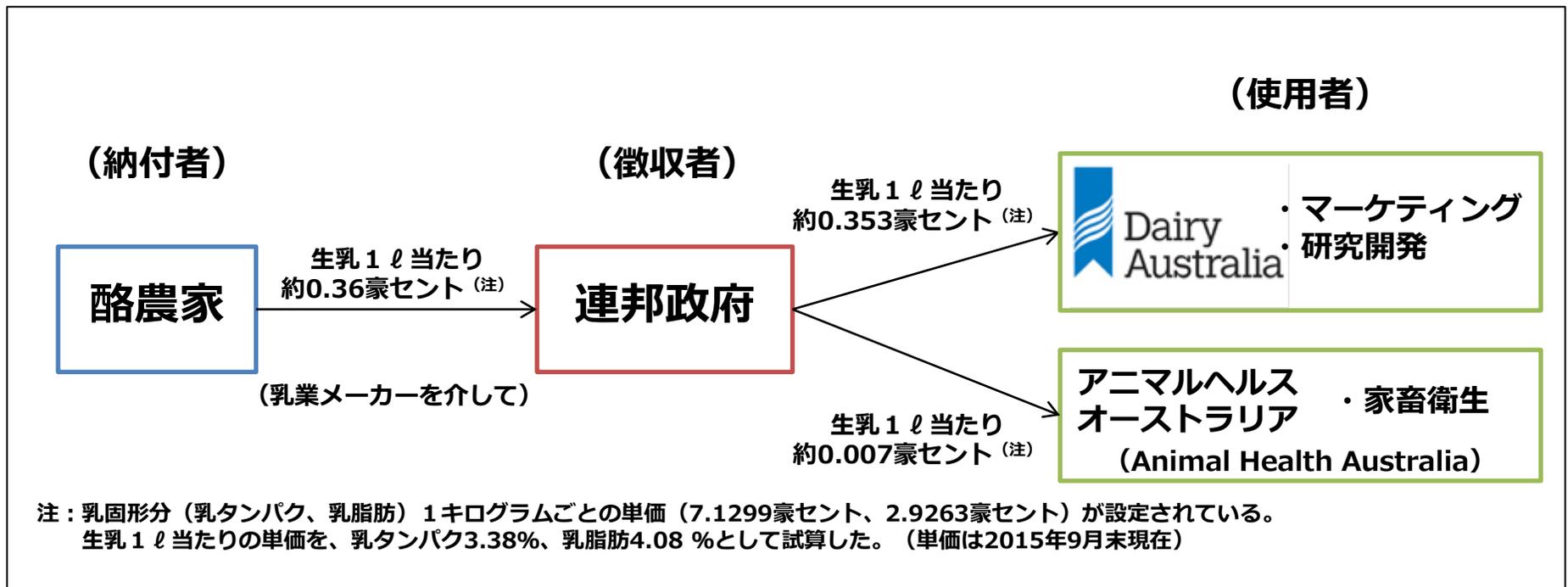
- 豪州の農業政策では、生産者への直接支援は少ない。
- 生産者団体が、マーケティング、研究開発、生産者への経営指導などを実施。
 - Australian Dairy Farmers ... 酪農家団体（ロビー活動）
 - Australian Dairy Products Federation ... 乳業メーカーの団体
 - Australian Dairy Industry Council ... ADFとADPFを束ねる団体
 - Dairy Australia（DA）... マーケティング、研究開発等の実施団体
 - National Farmers' Federation ... 政府等に働きかけ、生産者の地位向上を図る



生産者団体（2）

- 課徴金を財源に、マーケティングや研究開発、家畜衛生等の情報発信を実施（チェックオフ制度）。
- 酪農乳業では、DAがチェックオフ制度の実施団体として機能。

課徴金の流れ

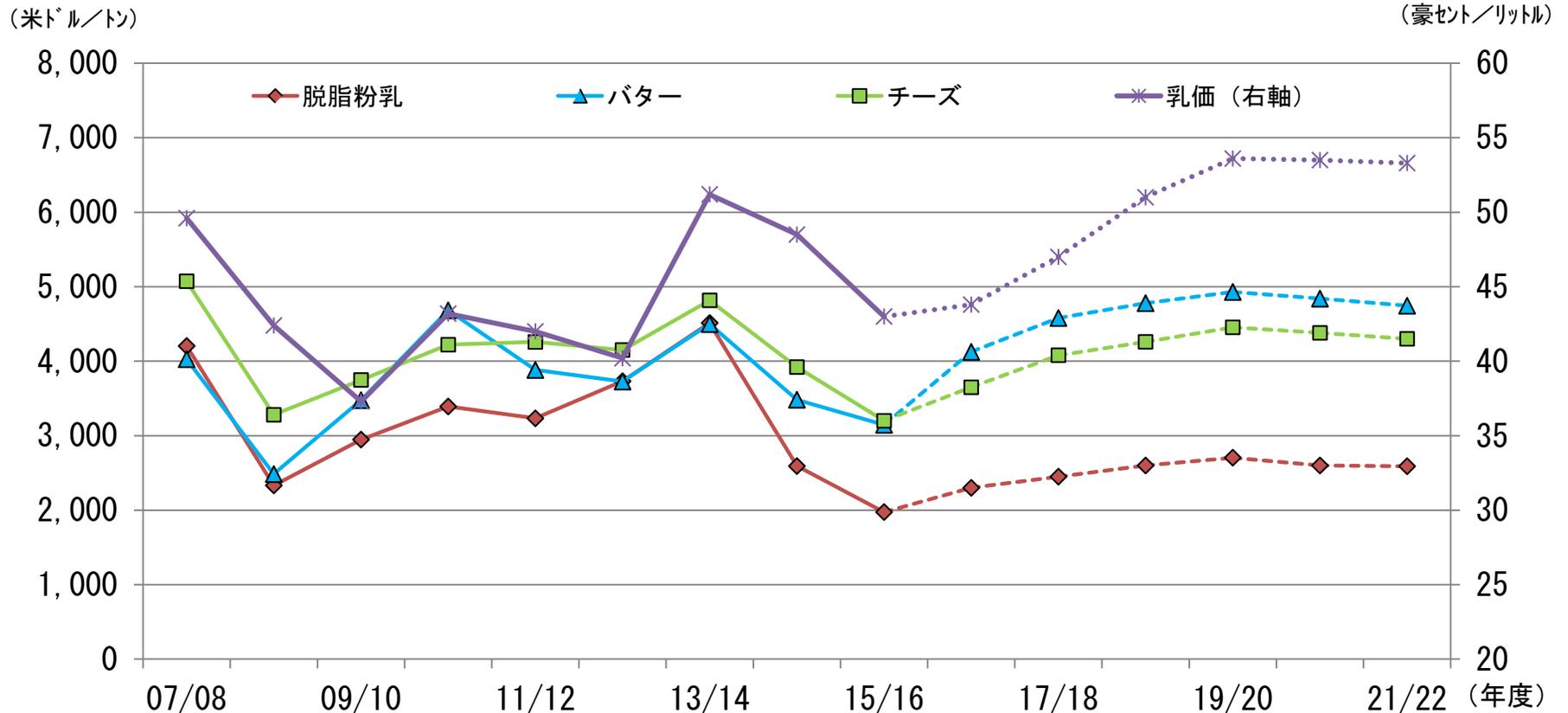


5. 今後の見通し

今後の見通し（1）

世界的な乳製品需要の増加により、生産者乳価は上昇の見通し。

乳製品国際価格および生産者乳価の見通し



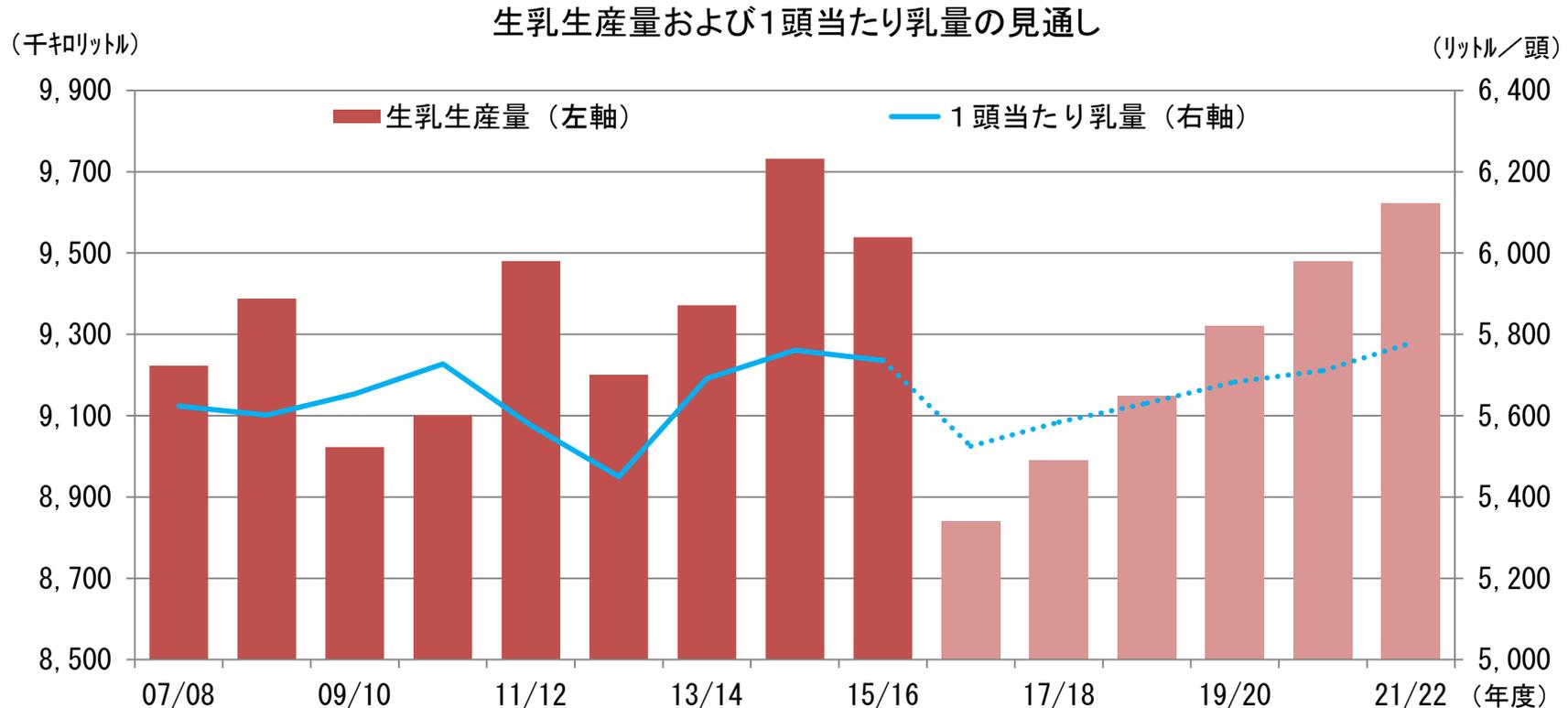
資料：ABARES

注1：乳製品国際価格および生産者支払乳価は名目ベース。

注2：2016/17年度以降は予測。

今後の見通し（2）

- 2016 / 17年度の生乳生産量は大幅減。
- 乳製品国際価格の上昇に伴い、17 / 18年度以降は増加の見通し。



資料：ABARES

注：2016/17年度以降は予測値。

まとめ

- **乳製品国際価格の下落を受けて、2015/16年度の生産者乳価は大きく下落。**
- **生産者乳価の下落により、生乳生産量は減少。**
- **今後は、乳製品国際価格の上昇に伴い、生産者乳価も上昇の見込み。**
- **生産者乳価の上昇、需要の増加に伴い、生乳生産量は増加していく見通し。**

<参考>

豪州の酪農経営～生産風景①～

- VIC州西部、コーラックの酪農家（2017年3月）。
- 850エーカーで220頭の乳牛を飼養。
- 1頭当たり年間乳量は8500リットル
- 湧水を活用



豪州の酪農経営～生産風景②～

- VIC州西部、キャンパーダウンの酪農家（2017年3月）
- 1500エーカーで1000頭飼養。
- 1頭当たり年間乳量は1万リットル。
- かんがい施設を放牧地に導入



豪州の酪農経営～生産風景③～

- ふん尿は野積みで堆肥化させ、放牧地に散布。
- 搾乳場で発生する排水を貯水池に貯め、固液分離させ、放牧地に散布。



ご清聴ありがとうございました。

畜産の情報2016年12月号「豪州の酪農家を取り巻く環境と牛乳・乳製品の生産動向」にも豪州の酪農業界の最近の動向が掲載されております。是非ご覧ください (<https://www.alic.go.jp>)。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

配信を希望される方は、機構ホームページ (<https://www.alic.go.jp>) 右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは 責任を負いません。